

Case Study

支部ケース・スタディ

近畿支部

『勇さんのあいコムランド』 公開収録について

(株)あいコムこうか

制作部放送課 課長
渡辺 大記



『勇さんのあいコムランド』について

情報バラエティ番組『勇さんのあいコムランド』は、2017年4月からコミュニティチャンネルで放送している59分の番組です。ミュージシャンやプロデューサーとして活躍する川本勇さんをメインMCにして、市民の皆さんに「あいコム特派員」として番組に出演していただき、地域の身近な話題を紹介しています。また、出演者が一つのテーマに対して意見を出し合う激論コーナーもあります。通常は月に1度、本社スタジオで収録しています。

この番組がスタートした背景には、開局後、数年が経過し、何かこれまでにない番組ができないかということがありました。

もう一つ、この番組はスタッフのスキルアップの意味もあります。放送課には、現在7人が所属しています。しかし、スタジオ収録に必要な技術系の仕事がこなせる人員は限られています。このため、県内の制作会社と協力して制作することになりましたが、収録時にはフロアディレクター以外のカメラやミキサー、スイッチャーなど技術系は、自社の社員が担当し、必要な技術を身につける機会としました。

また、弊社では甲賀市が各家庭に設置した音声告知端末からも独自の番組を放送していますので、そのアナウンサーにアシスタントとして、コーナーにも出演してもらっており、あいコムの顔となっています。

さらに、この番組は、地上波のびわ湖放送でも月に一度、放送しています。地元向けのみならず、滋賀県内全域に向けての甲賀市からの情報発信の場として、出演していただく方に位置づけてもらいたいという思いもあります。

地元の大型ショッピングセンターで公開収録の開催

あいコムランドには、毎回、5人から8人のあいコム特派員が登場していますので、これまでに延べ150人ほどの市民の皆さんにご出演いただいていることとなります。

出演いただいた方にお話を聞いていると、実は、あいコムこうかのことをよく知らないとか、そもそも、あいコムこうかの番組を見たことがないという方も少なくないことが分かりました。

あいコムこうかの知名度をもっと上げたい、また、より多くの市民の皆さんと番組を通してつながりたい。収録を重ねていく中で、そうした思いが強くなりました。そこで持ち上がったのが公開収録でした。

まず検討したのが、場所でした。あいコムこうかの番組収録というだけでは、集客は期待できないので、市民の皆さんが多く集



客席の様子



川本勇(左)とアシスタント(右・弊社社員)

まる場所に私たちの方が出かけていくというコンセプトのもと、地元の大規模ショッピングセンターの中央広場をお借りすることができました。さらに、その年がこの店舗の周年祭と重なり、店舗独自のチラシを新聞折り込みできるということで、事前のPRの点で助かりました。

続いて、テーマをどうするか。公開収録にふさわしい、何か甲賀市が元気になるような内容をということで、2020年のオリンピック、パラリンピック東京大会をめざして活動する甲賀市出身の3人のアスリートの方を中心に出演いただくことにしました。

さらに、コメンテーターとして、これまで番組にも出演いただいている甲賀市の市長に加え、スペシャルコメンテーターには、「走る男」こと、タレントの森脇健児さんを起用することにしました。



スペシャルコメンテーターの森脇健児さん



甲賀市の新しい特産品を紹介するコーナーには陶芸家さん(右)も出演



甲賀市出身のアスリートの皆さん

感謝イベントを同時開催。収録当日は大盛況

公開収録の実施を決めたとき、社内から、あいコムこうかの感謝イベントを同時に開催できないかという声がありました。そこで、地元のダンス教室に依頼し、公開収録後に、キッズダンスや県内のミュージシャンによるライブを開催することにしました。もちろん、川本勇さんのバンドにも出演してもらいました。その模様も収録し、あいコムランドとは別に、特別番組として放送することにしました。

また、会場では弊社のサービス内容を紹介するチラシを配布するなど、あいコムこうか自体のPRも行いうことにしました。

今回は、会場にカメラ4台を持ち込みました。スタジオ収録はカメラ3台で行っていますが、人員の関係上、カメラマンは1人だけで、残りの2台はスイッチャーがリモートで操作しています。

公開収録時は、音響関係を外注したため、通常ミキサーを担当する社員をカメラに付けることができました。



本番中に思わず、お客さんとのふれあいも



出演したアスリートの皆さんの練習風景も事前に取材

結果、4台のカメラのうち2台にカメラマンが付き、スタジオ収録と比べて、カメラワークに幅ができました。

会場では、スイッチャーからの出力映像を大型テレビとプロジェクターに映し、アスリートが登場する際には、そのアスリートを紹介するVTRを出すなどして、集まったお客様にも分かりやすいよう配慮しました。こうしたことはスタジオ収録では思いつかなかったことですが、ステージと会場との一体感を出すためには、効果があったと思います。

当日は、放送課員だけでなく、他の課員にも協力してもらい、出演者の誘導や控え室の準備などにあたりました。幸い、当日は大勢のお客様にお越しいただき、収録時には2階から見学されるお客様も見られました。公開収録と感謝イベントをしめくくるフィナーレには、出演いただいた皆さんで番組のエンディングテーマ曲を一緒に歌い、盛況のうちに終了することができました。



公開収録と感謝イベントのフィナーレ

公開収録は次年度も継続。今後の課題は人材育成

公開収録については、社内外で好評だったことから、次年度以降も継続して行うことになりました。

課題は人材育成です。公開収録に限ったことではないのですが、少ない人員の中では、特に技術系の担当者を固定して毎回收録した方が効率が良く、またある程度、質の良い番組ができると思います。私もあいコムランドの収録では、スイッチングと2台のカメラのリモート操作をこなしていますし、ミキサーはベテランの社員に担当してもらっているので、安心して任せることができます。ところが、担当者が別の業務で収録にいけないとき、あるいは収録を休まざるを得ないときに、どうするかという課題があります。個人のスキルアップを図りながら、誰がどの担当になっても、支障なく収録できる体制作りが急務です。

市民とのつながりづくり

先般、ある企業の社長さんから、こんなお声をいただきました。「あいコムさんは、三セクの会社やから、うちみたいな民間の会社なんか、取材してもらえへんと思ってた」。

確かに、あいコムこうかは甲賀市が出資者の一つとして入っている第三セクターの会社です。しかし、自主制作している情報番組を始め、『あいコムランド』でも、民間企業の取り組みからおしゃれなカフェまで、バラエティーに富んだ内容をお伝えしています。

どうすれば番組を観てもらえるかということは、常に考えていくことが必要だと思います。ただ、毎日の業務の中で、放送課員がより多くの市民の皆さんとコミュニケーションをとり、自分たちの暮らしに近い存在だということを感じてもらう必要性を痛感しました。

私は、あいコムランドの公開収録をそうした作り手と市民とをつなぐ機会にしたいと思っています。公開収録は、集まったお客さんから、反応をじかに感じとり、お声を直接、うかがうことができる貴重な機会だと思うのです。